

親御様のためのセミナー
 子供のご結婚を考える
 お子様のご結婚について
 お悩みはございませんか？

100%手作りのお世話®

無料
開催中

結婚物語 弾む心 (母の思い)

弾みます。弾みます。心が弾みます。
 前に座っている主人にも、ちょっとは落ち着きなさい、とたしなめられ、自分でもわかってはいるのですが、この弾む思いは如何ともし難いのでございます。長年人さまの → 続きはWebで [Em Road 結婚](#)

Marriage Road 結婚

Em Roadはここが違います

- 1 成婚率の高さ
- 2 質の高い会員層
- 3 同一アドバイザーによる一貫したお世話
- 4 自社会員のみ構成
- 5 格式あるお見合いパーティー
- 6 安心の均一料金システム

0120-4122-46 10:00~18:00 水曜定休

大阪 阪急グランドビル20F(阪急32番街) 神戸 神戸国際会館17F 京都 オフィス・ワン四条烏丸6F

資料無料 ●ドクターズコース ●スタンダードコース ●シニアズコース

Em Road 結婚 検索

大阪医科大学
仁泉会ニュース

仁泉会ニュース 第50巻第3号
 発行所 〒569-8686 高槻市大学町 2-7
 電話 072-682-6166 FAX 072-682-6636
 発行者 河野 公一 発行部数 6,100部
 URL http://www.jinsenkai.net

2019.5.26
 平成31年度 評議員会
 および総会を開催いたします



ALL NEW ELECTRIC JAGUAR I-PACE



シビれる電気ジャガー、誕生。



ジャガー初の電動パフォーマンスSUV、I-PACE。

400PSの最高出力と実用性に優れた696N・mの最大トルクを発揮。
全輪駆動のトラクションにより、0-100km/h加速はピュアスポーツカー並みの4.8秒を誇ります。
1回のフル充電による航続距離は、WLTPモードで470kmと運動性能と実用性を両立しています。

I-PACE	車両本体価格(税込)
I-PACE S	¥ 9,590,000～
I-PACE SE	¥ 10,640,000～
I-PACE HSE	¥ 11,620,000～

仁泉会ニュースをご覧の方限定のI-PACEご成約特典!!
インターコンチネンタルホテル大阪でのディナーにペアでご招待



I-PACE デビューフェア開催 5月18日(土)～26日(日)

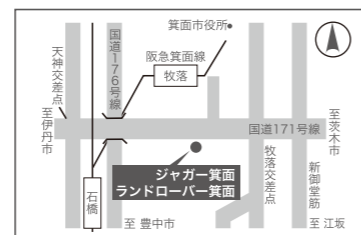
ぜひご来場いただき新時代の走りをご体感ください! 皆様のご来場をスタッフ一同、心よりお待ちしております。

Please Contact Us JAGUAR / LAND ROVER



ジャガー箕面
ランドローバー箕面

〒562-0043 箕面市桜井3-13-7
TEL 072-721-8883
定休日 水曜日
営業時間 10:00-19:00



詳しくはショールーム、スタッフまでお問い合わせください。

目次

P4	平成 31 年度評議員会及び総会招集のご案内 平成 30 年度卒業証書・学位記授与式	
P8	学長告辞	大阪医科大学学長 大槻勝紀
P10	祝辞	大阪医科大学 仁泉会理事長 河野公一
P11	医学部長式辞 学会案内	大阪医科大学医学部長 大槻勝紀
P13	ご案内 第 33 回日本神経救急学会学術集会 主題「神経救急・集中治療の教育と実践」 支部だより	小畑仁司 (学 33 期)
P14	仁泉会福井県支部だより	原 隆 (学 47 期)
P15	報告 京都仁泉会学術講演会 平成 31 年 2 月 9 日 於：京都ホテルオークラ	寺村和久 (学 37 期)
P18	平成 31 年仁泉会大阪市北区支部総会懇親会の報告	末澤慶昭 (学 19 期)
P19	大阪医大女医会からのご案内	
P20	平成 31 年仁泉会東大阪支部新年総会報告	三宅直子 (学 28 期)
P21	平成 30 年度仁泉会香川県支部総会のご報告 平成 31 年 3 月 23 日 (土曜日) 於 高松国際ホテル 寿の間 学部 43 期同窓会のご案内	安賀文俊 (学 51 期)
P22	大阪医大六甲会のご案内	
P23	平成 31 年度大阪医大仁泉会高知県支部新年会 及び総会報告	市原直子 (学 24 期)
P24	学部 26 期同期会のご案内	
P25	受賞報告 内田博久先生 (学 24 期) 役員就任 気になるあの場所・あの人に編集部がジャストミート	
P26	母校に女性医師支援センターが開設されました センター長の神崎裕美子先生と副センター長の 喜田照代先生にセンターの「これから」について 聞きました	
P28	会員著書 岡田 定先生 (学 30 期)	
P29	学 23 期生 (昭和 49 年卒) 同窓会および ゴルフコンペのお知らせ	
P30	新聞切抜 熊野宏二先生 (学 39 期)	
P31	新聞切抜 大槻周平先生 (学 47 期) 東雲出張版	白川 誠 (医学部 2 回生・文芸部)
P32	記事紹介 吉田周造先生 (学 52 期)	
P33	まんが	シュララぼん太 (学 31 期)
P34	エッセイ「歴史を彩った女性達 (17)」 本部だより	西村 保 (学 4 期)
P35	会員計報	
P36	編集後記	

平成31年度 評議員会及び総会 招集のご案内

平成31年度の仁泉会定期総会及び評議員会を下記の要領にて開催致します。お手数ですが出欠を同封の総会ハガキ（兼委任状）にて必ずご返信ください。

総会終了後には恒例の懇親会も開催致します。多数ご出席下さいますようお願い申し上げます。

理事長 河野公一

日時：2019年5月26日（日）

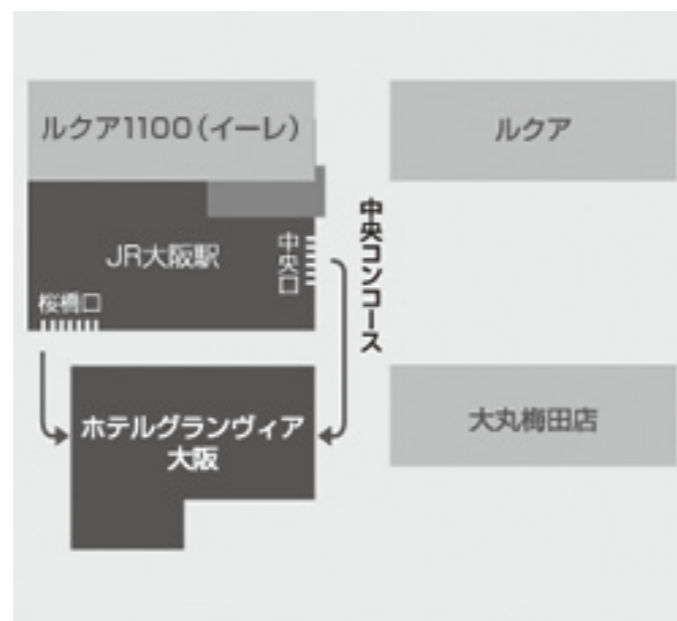
午後2時30分より定期評議員会

午後3時より定期総会

午後5時より懇親会

会場：ホテルグランヴィア大阪 20階「名庭の間」

ホテルグランヴィア大阪ご案内地図



- JR大阪駅に直結しております
- お車でのご来場はご遠慮ください

定期評議員会次第

1. 評議員選出について
2. 支部会活動報告
3. その他

定期総会次第

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会の辞 2. 物故会員に対する黙祷 3. 理事長挨拶 4. ご来賓挨拶 5. 仮議長指名 6. 議長選任 7. 議事録署名者選出 8. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> ①平成30年度事業報告 ②平成31年度事業計画について ③平成31年度予算について ④山口県懇談会報告 | <ol style="list-style-type: none"> 9. 議案 <ol style="list-style-type: none"> ①平成30年度収支決算案承認を求める件
監査報告 ②役員改選の件 ③その他 10. その他 11. 閉会の辞 |
|---|---|

平成31年度 仁泉会事業計画

【公益目的事業】

1. 学術振興研究援助事業

学術振興及び研究発展の為に、医学会及び研究会に対して助成を行う。

2. 奨学金貸与事業

良医の育成を目的とした、医学部学生に対して奨学金の貸与を行う。

【一般事業】

3. 仁泉会本部諸事業

- 1) 大阪医科大学への後援
 - ① 母校の募金事業活動へ協力し、母校の発展向上に寄与する。

- ② 平成31年度卒業生の内、優秀な者に対し、理事会の議を経て、仁泉会理事長賞を授与する。
- ③ 学生の諸活動への援助を行う。
- ④ 母校の発展向上に寄与する為の支援・協力活動を推進する。
- ⑤ 母校執行部、教職員並びに学友会との連携をはかる。
- ⑥ 母校国家試験対策事業への援助を行う。

2) 会員の福利厚生への支援

- ① 会員の動向把握を行い、会員慶弔時における福利厚生につとめる。
- ② 会員相互の親睦交流を深める為の活動支援を行う。

- 3) 仁泉会組織強化に関する事業 大阪薬科大学同窓会との情報交換と交流を行う。
- ① 支部組織強化の為の活動への支援。
 - ② 会員で構成される団体への支援。
 - ③ 会費納入の理解協力を求め、納入率向上の為の広報活動を行う。
 - ④ 地区合同懇談会を開催し、組織率向上を目指す。
 - ⑤ 学生会員の加入を促し、母校の発展向上に寄与する。
- 4) 全国私立医大同窓会との連携 全国私立医大同窓会連絡会に参加し、私立医科大学同窓会相互の連携と情報共有を深め本会の発展向上を図る。
- 5) 大阪薬科大学同窓会との連携
- 6) 広報事業
- ① 機関紙「仁泉会ニュース」の定期発行（学術機関誌としての内容充実）。
 - ② 電子化広報の充実拡充（仁泉会ホームページ及びフェイスブックの更新）。
- 7) 名簿事業 2020年版名簿を作成する。
4. その他法人の目的達成に必要な事業 以上

平成31年度基金会計収支予算書

(自平成30年4月1日～至令和2年3月31日) (単位 円)

	科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
収入の部	1. 基金運用収入	6,810,000	5,300,000	1,510,000	
	①基金利子	10,000	100,000	△ 90,000	基金運用利息
	②返還金	6,800,000	5,200,000	1,600,000	奨学金返済
	2. 寄付金	10,000	10,000	0	
	3. 雑収入	10,000	10,000	0	普通預金利息
	当期収入 (A)	6,830,000	5,320,000	1,510,000	
	前期繰越額	18,242,334	17,570,687	671,647	
合計 (B)	25,072,334	22,890,687	2,181,647		
支出の部	1. 事業費	5,000,000	4,400,000	600,000	
	①研究助成費	100,000	100,000	0	
	②研究奨励費	100,000	100,000	0	
	③奨学費	4,800,000	4,200,000	600,000	8名程度
	2. 管理費	50,000	30,000	20,000	
	①雑費	20,000	20,000	0	口座引落手数料
	②租税公課	30,000	10,000	20,000	
	3. 繰出金	2,000,000	2,000,000	0	
	4. 予備費	18,022,334	16,460,687	1,561,647	
	当期支出 (C)	25,072,334	22,890,687	2,181,647	
	収支差額 (A)-(C)	△ 18,242,334	△ 17,570,687	△ 747,654	
次期繰越 (B)-(C)	—	—	—		

平成31年度一般会計収支予算書

(自平成31年4月1日～至令和2年3月31日) (単位 円)

	科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
収入の部	1. 入会金	2,000,000	2,000,000	0	200名
	2. 会費	25,000,000	25,000,000	0	
	3. 学生会費	1,800,000	1,800,000	1,800,000	学生会員100名
	4. 寄付金	10,000	10,000	0	
	5. 雑収入	3,000,000	2,000,000	1,000,000	広告/預金利息等
	6. 編入金	2,000,000	2,000,000	0	
	当期収入 (A)	33,810,000	32,810,000	1,000,000	
	前期繰越額	17,000,000	11,965,580	5,034,420	
合計 (B)	50,810,000	44,775,580	6,034,420		
支出の部	1. 事業費	18,600,000	14,900,000	3,700,000	
	①会報費	10,000,000	10,000,000	0	会報誌発行/発送
	②学術費	1,000,000	1,800,000	△ 800,000	学会支援
	③学生後援費	1,000,000	1,000,000	0	学園祭支援等
	④記念事業費	200,000	200,000	0	
	⑤福利厚生費	100,000	100,000	0	
	⑥慶弔費	800,000	800,000	0	供花料/生花代
	⑦国家試験対策費	500,000	1,000,000	△ 500,000	既卒者支援
	⑧名簿作成費	5,000,000	-	5,000,000	
	2. 会議費	2,000,000	2,000,000	0	総会/合同支部会/理事会他
	3. 管理費	14,950,000	14,950,000	0	
	①給料手当	7,000,000	7,000,000	0	事務員3名
	②旅費	1,500,000	1,500,000	0	理事会、支部会出席他
	③通信費	400,000	400,000	0	切手・電話・電報料
	④備品費	200,000	200,000	0	
	⑤消耗品費	350,000	350,000	0	
	⑥会費徴収費	350,000	350,000	0	
	⑦社会保険料	850,000	850,000	0	
	⑧交際費	500,000	500,000	0	支部会賛助金他
	⑨諸謝料	1,300,000	1,300,000	0	監査・弁護士顧問料
	⑩雑費	500,000	500,000	0	
	⑪事務局費	600,000	600,000	0	事務室賃借料
	⑫租税公課	1,200,000	1,000,000	200,000	消費税他
⑬積立金	1,000,000	1,000,000	0	周年事業準備他	
4. 予備費	14,460,000	12,325,580	2,134,420		
当期支出 (C)	50,810,000	44,775,580	6,034,420		
収支差額 (A)-(C)	△ 17,000,000	△ 11,965,580	△ 5,034,420		
次期繰越 (B)-(C)	—	—	—		

(注) 1. 借入金限度額 0円
2. 債務負担額 0円

祝・卒業

平成30年度

卒業証書・学位記授与式

今年の卒業式・学位記授与式は平成31年3月8日(金)12時より高槻現代劇場大ホールにて行われました。

まず、第1部として68期の医学部111名と学部6期生となる看護学部84名の合同卒業式が行われました。学長の告辞に続き、来賓代表の祝辞、在学生送辞、卒業生答辞が述べられ、学長賞の褒賞授与が行われました。

第2部の学位記授与式は各学部に分かれて執り行われ、医学部長が卒業生全員に卒業証書を饒の言葉とともに手渡し、式辞を述べられました。その後、医学教育センター長・医学学生生活支援センター長賞及び仁泉会理事長賞の表彰、仁泉会河野理事長の祝辞、恒例のスライドショーが行われ、滞りなく第68回卒業式が終了しました。

尚、今年の仁泉会理事長賞は加藤翔平さんが受賞されました。

以下にご挨拶要旨を掲載します。

学長告辞

大阪医科大学学長 大槻勝紀

弥生の季節を迎え、木々のつぼみも膨らみ始めた今日この頃、本日ここに本学卒業式を挙行いたします。

大阪医科大学医学部医学科第68期生111名並びに看護学部看護学科第6期生84名の皆様、ご卒業誠におめでとうございます。またご臨席賜りました保護者の皆様、心よりご子息、ご令嬢のご卒業をお喜び申し上げます。大学にとりまして、卒業式は学位記を授与し、卒業生がそれを抛り所に、実社会に船出する大切な学事でありませぬ。

本日は同一法人である大阪薬科大学 学長 政田 幹夫先生、高槻中学高等学校校長 工藤 剛先生をはじめ、ご列席いただいております御来賓の各位に教職員並びに卒業生を代表いたしまして、厚くお礼申し上げます。

また中山国際医学医療交流センターを通じて、現在本学で研修中の韓国カソリック大学、シンガポール国立大学、国立台湾大学の学生諸君をご紹介させていただきます。

Now, I would like to introduce our guest students from Catholic University of Korea,



Mr JUNG Jaeuk, Mr KWON Ohmin, from National University of Singapore, Ms QU Xinyi, and from National Taiwan University, Mr LUO Yan Ting, Mr LIAO Cheng Hung. Thank you for your attendance at our graduation ceremony of Osaka Medical College on this memorable day.

医学部においては6年間、看護学部においては4年間 本学で多くの事を学ぶとともに将来に渡る友人を得、また本学の「自由な学風」の下、諸君はクラブ活動などで学生生活を enjoy されたと思います。初代理事長の吉津 度先生は建学の精神として「教育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またそ

れらは実地の医療に活かすことで達成される。」と唱え、当時の移民団への医師派遣を目的として本学が設立されました。学歌の第5節には南溟の空遠く、アマゾンの岸の花、崑崙か、ゴビの原などと謳われ、校旗の三色、黄色は大地を、赤は太陽を、緑は海原を意味しています。本学は今でいう国際化を目指した大学であります。今後、皆さんは国内外を問わず社会に貢献できる医療人として、あるいは大学に残り、教育者や研究者として活躍されることと思います。

勤務医に対しては昨今、医師の働き方改革が社会問題となっています。医師法では医師に診療を拒んではいけない「応召義務」を定められています。一方、今まで労基法では医師には残業時間の制限がありませんでした。しかし本年1月に厚労省から医師に残業時間の上限が示されました。まだ不確定ではありますが、通常勤務医の場合960時間、地域医療に関わる医師は最長、年1860時間と過労死以上の上限が設けられています。2024年4月を目処に罰則付きで適応される予定です。今後は医師の仕事の一部を看護師やクラークに任せるタスクシフティングのシステムや勤務間インターバルの実施など多職種で知恵を出しあっていかなければ医療は成り立たない時代が来ます。

「人間」の漢字は、ご存知と思いますが、「人」は互いに支え合い、「間」は人との間(コミュニケーション)が大切だということを意味しています。そのためにも医師や看護師など医療人になれる諸君は薬剤師、技師や職員の方々と共にチーム医療を行い、患者さんとの円滑なコミュニケーションを図っていく必要があります。本学の教育の特徴として「多職種連携教育 Inter Professional Education」が挙げられます。本学ではカリキュラムの一部に、医療人マインド、医看融合ゼミや専門職連携医療論などが設けられ、本学医学部や看護学部だけでなく大阪薬科大学薬学部の学生も参加され、それぞれ異なった立場で医療を考え、相互理解を深めています。また3年前から毎年8月に開催される高知県嶺北中央病院での地域医療実習に本学の医学部、看護学部と大阪薬科大学薬学部の学生が参加しています。当地での医療カンファレンスには医師、看護師、保健師、薬剤師、ケースワーカーやケアマネジャーなど多職種の方々が事例を通して連携を図っていることを学生

は学びました。これからの医療を考えたとき、医師、看護師、薬剤師、技師、事務職員などが与えられた職務を個として行うだけでなく、多職種と連携してのチーム医療を行なうことが求められてきます。社会人になると「個の力」では到底解決しようもない事例をこれからたくさん経験していくことになります。学生時代なら意見が異なる相手を避け、気の合う仲間とだけ付き合っていけば済むのですが、社会人として「チーム」で行動する場合にはそうはいきません。いずれにしても「チーム」を構成するのは、異なった立場で、異なった意見の持った「個」の集団です。チームを引っ張るには優秀なリーダーが必要です。

リーダーシップについてパナソニックの創業者、松下幸之助さんが自社の管理職員の前で話された言葉が残っています。リーダーに必要な性格として「愛嬌」、「強い運」と「後姿」という、意外な三つを挙げています。理由はあえて説明せずに話されています。私なりに解釈しますと「愛嬌」のある人は周りをリラックスさせるが、どこか心配で自分たちがしっかり守っていかなくてはと思わせます。「強い運」の持ち主を見ると、この人についていけば何とかなるといった安心感とともに、チャレンジする勇気が湧いてきます。また「後ろ姿」にひかれる人物には、前例を踏襲せず、自ら道を切り開く強い行動力を感じ、次に何を行おうとしているのか、何にこだわっているのか、つい考えさせられます。リーダーとは周りの人すなわちフォロワーを passive から positive に変えてしまう人かもしれません。

3年前、本学で開催された第48回日本医学教育学会で故日野原重明先生に名誉会長講演をお願いし、「再びオスラー博士に学ぶ」と題してお話を頂きました。「患者さんの話に耳を傾け、患者さんに寄り添い患者さんから学ぶ姿勢が大切である」という一節をお聞きし、我々医療人は現在忘れかけていた医療の本質について考えさせられ、感銘を受けました。卒業生諸君が医療人として他者を思いやり利他の心で誠実に患者さんに接していく医療人になっていただければと願う次第です。

諸君の中には大学や研究機関で教員や研究者の道を歩む方もおられるでしょう。本学の教員は科研費やAMEDと呼ばれる公的研究費をたくさん獲得しています。しかし日本では年々、科研費の予算が削

られ、基礎研究を行う研究者が減少しています。昨年、ノーベル医学生理学賞を受賞された京都大学の本庶 佑（たすく）特別教授の影響でしょうか、来年度は科研費が86億円増やされて予算が計上されるとのことですが、日本の科研費は欧米諸国と比較してまだまだ不足しています。本庶先生は「高い理想をもって研究者を目指す若手人材に対し、安定した地位と研究資金を提供できる -」ことを目的として、「本庶 佑（たすく）有志基金」の設立を予定されています。基金の名称に使われた「有志」とは「有志竟成（きょうせい）」の故事に由来し、後漢書において斉（さい）の国の攻略など不可能と思っていた後漢の光武帝が、それを成し遂げた耿弇（こうえん）將軍を称賛して述べた言葉です。「有志竟成（きょうせい）」を訳すれば「志を曲げることなく堅持していれば、必ず事は成し遂げられる。」という意味です。しかし皆さんは志を堅持していても、容易に事が運ばず、どこかで壁にぶち当たることをしばしば経験することでしょう。どの様にしてその壁を乗り越えていけばいいのでしょうか。壁を超えるためには、若い時にどれだけ多くの臨床経験を積んできたか、自分を感化あるいは感動させるような書物をどれだけ多く読んできたか、また日頃研究を行う上で疑問に感じてきたことを深く掘り下げどれだけ長く考え悩み続けてきたかが重要です。あまり関係ないと思っていたことが点から線となり、ある時にひらめきとなり急に視野が開けるものです。いったん壁を乗り越えると面白いぐらいに次から次へと研究テーマが沸いてきます。私の好きな画家に平山郁夫画伯がいます。皆様も「シルクロード」といえば知っている方も多いことでしょう。彼は広島で生まれ、15歳のとき、広島で被爆しました。画家を目指して、現在の東京芸術大学に入学し、卒業後も東京芸大の助手を務めていました。30歳の頃、原爆後遺症に見舞われました。当時、画業の面でも大きな壁にぶち当たっていました。そのとき、彼が思ったことは「妻も子もいる。まだ死ねない。たとえ死んだとしてもこれが平山郁夫の絵だという作品を一枚でもいいから残しておきたい。自分が生きてきた証を描いてから死にたい。」と述べています。彼は死を覚悟して学生を引率して八甲田山へスケッチ旅行に行き、その後、日展で高く評価された「仏教伝来」を発表し、画家としての確固たる地位を築きました。彼は言っ

ています。「先が見えなくても、また、目標がまだわからなくても、とにかく止まってはいけない。いつかは報われる時が来る。そう信じて歩き続ければ、人生は扉を開いてくれる。」と。このことは画家だけでなく、これから臨床や研究をされる皆さんにとって「ぶれない自分」を作ることがとても重要だと思います。

最後になりましたが、西郷隆盛（せごどん）が愛した座右の銘「敬天愛人」を諸君の卒業の門出として贈ります。「天を敬い、人を愛す」という意味ですが、医療人に置き換えますと、「人それぞれ定められた運命というものがあります。医師、看護師、保健師、助産師、研究者や教育者として進むべき道は異なるかもしれませんが、患者さん、同僚、学生などすべての関わりのある人を愛しむことにより、進むべき道が開かれる」と言えます。本学の建学の精神に則り、国際的視野を持ち、社会に貢献できる医療人として将来の医療を支えてくれることを祈念して学長の告辞と致します。

ご卒業おめでとう。

祝辞

一般社団法人大阪医科大学

仁泉会理事長

大阪医科大学名誉教授 河野公一

第68期医学部卒業生の皆様この度はご卒業まことにおめでとうございます。また本日ご臨席いただいております、ご両親をはじめご家族の皆様には感慨ひとしおのことと存じます。心からお慶び申し上げます。さらに本日まで卒業生の皆様をご指導され、薫陶を賜りました本学教職員並びに関係各位に対しましても、お祝いとともに厚く御礼申し上げます。

医学部卒業生の皆様は本日から、一般社団法人大阪医科大学仁泉会（すなわち同窓会）会員であります。本法人は1927年創立の大阪高等医学専門学校及び大阪医科大学卒業生で構成され医学部68期の皆様111名を新たに加えますと9666名を数えます。

仁泉会の活動は会員の福利厚生を主たる目的として、情報共有のための定期的な会員名簿や会報の発

医学部長式辞

大阪医科大学医学部長 大槻勝紀

平成30年度医学部医学科第68期生の卒業生の皆様、改めてご卒業おめでとうございます。学長告辞でもお話ししましたように本学が創立された昭和2年は昭和の大恐慌の最中で、中国、ハワイ、ブラジルなどへ移民団が結成され移民団での医師不足が社会問題となった時期でもありました。当時衆議院員であった吉津 度先生が現在の京阪電鉄株式会社から財政援助を受けて、本学が設立されました。皆様の卒業式のパンフレットの学歌の第5節に本学の建学の背景が歌詞として残されています。また本学初代の理事長であった吉津 度先生は「医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またそれらは実地の医療に活かすことで達成される。」と唱えられました。そのため本学の建学の精神には「医学教育」「医学研究」「実地医療」「国際化」といったキーワードが含まれていることを卒業生諸君には今一度、確認し、良き医療人になっていただきたいと思います。

4年前、学長就任時に「建学の精神」に基づき教学の中期計画として5つの教学改革方針を発表しました。'Innovation'、'Translational Research'、'Social Contribution'、'Globalization' と 'Open Mind' です。Innovation 教育改革では2年前から新カリキュラムを実施し、本年2月にJACMEから本学は医学教育分野別評価、いわゆる国際認証が認定され、高い評価を受けました。Translational Research 医学研究では、この4年間で大阪医大は大きく変わりました。科研費の採択件数は2倍に増えました。また昨年、文科省の大型のプロジェクトにも採択されました。'Social Contribution' 社会貢献ではこれまで阪神淡路大震災、東北大震災や熊本地震等にDMATやJMATを派遣してきました。また建学の精神に基づき、兵庫県や高知県への医師派遣を通じて地域医療にも貢献しています。'Globalization' につきましては、中山国際医学医療交流センターを通じて学生の国際交流を行い、諸君の中にも多くの方々が海外で貴重な経験を積んでこられたことと思います。今後は単位互換制度や大学院の修士課程の設置など国際化を推進していきます。'Open Mind' ですが、昨今、医学部入試が社会的に問題となっています。本学はこれまで医学部入



行、同期会や全国・海外での支部会開催の援助、本学医学部学生への奨学金貸与、学園祭や西医体への支援、本学教員をはじめ仁泉会員が主催する国際学会や全国的な学会への助成など様々な分野に及んでいます。

卒業生の皆様にはぜひその趣旨をご理解いただき、将来にわたり仁泉会の活動を支えてください。

さて卒業生の皆様は、今日から大阪医科大学で学んだ医学における知識をベースに更なる研修を経て、医療、教育・研究の道を歩まれることとなりますが、その目標はただ一点にあります。それは「生の尊厳」すなわち「生に対する畏敬の念」であります。私の尊敬する先人の一人ウイリアム・オスラー博士（彼は米国ペンシルバニア大学を隆盛に導き、ジョンズ・ホプキンス大学医学部の礎を築いた人です。また本年12月29日に没後100年を迎えます。）は患者を自身の家族と同じように心から愛し、大切にする、「人道主義の心」を医学の中に導入した最初の医師であります。

また私が敬愛する恩師の一人であり、留学先の英国ロンドン大学公衆衛生大学院長で産業医学研究所所長のリチャード・シリング教授は彼の名著「働く人々の病気」のなかで「職業病はすべて環境要因のなせる業であり、故に予防に勝る治療はない」が私のその後の進むべき道を決定つけたといっても過言ではありません。

卒業生の皆様がこれから進まれる道は多様であり、それぞれの場で積まれる経験や知識が新たな医学の進歩に、またこれら先人の説く「生の尊厳」につながるものと信じています。

あらためまして、卒業生の皆様の前途を祝福しますとともに、ご家族の弥栄（いやさか）をご祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

試につきましては透明性を高め公平性を期してきました。今後も入試を含め、大学の情報を社会に発信していきたいと思っております。学長としても大学ブランド力を上げることに注力し、諸君が本学の出身者として誇れるような大学にしていきたいと考えています。他大学で研修を受けられる諸君には、大阪医大はいつでも喜んでレジデントとして受け入れます。是非とも本学の素晴らしい臨床医や研究者の指導の下でともに働きたいものです。

諸君の多くは臨床医として医療に携わって行くと思いますが、中には私のように大学や研究機関に残り、医学研究を続ける方もいると思います。野口英世の話をしてみると、彼は梅毒スペロヘータや黄熱病の研究で過去3度ノーベル賞にノミネートされました。彼は福島県猪苗代湖の近くで生まれ、1歳の時に左手に大火傷を負い、その後手術を受け成功したことから医学の道を歩むことになった話をご存知のことと思います。私は猪苗代湖を訪れる度に、野口英世記念館を訪問しますが、記念館には当時の生家がそのまま移築されています。またそこには野口英世が残した名言集が掲げられています。そのうちの幾つかを紹介します。

「努力だ、勉強だ、それが天才だ。」

「誰よりも、3倍、4倍、5倍勉強する者、それが天才だ。」

「ナポレオンは夜3時間しか眠らなかった。彼になしえられる努力が、自分になしえられぬはずがない。」

実際に、彼は寸暇を惜しんで脳梅毒患者の脳の連続切片標本を顕微鏡観察し、遂に脳内に梅毒スピロヘータを発見しました。

諸君は日本人で最初のノーベル受賞者をご存知でしょうか。京都帝国大学の物理学者 湯川秀樹博士ですね。湯川博士は「素粒子理論」で1949年にノーベル物理学賞を受賞されました。実はそれより20年前にノーベル医学賞を受賞されるはずであった研究者がいました。東京帝国大学の山極（やまぎわ）勝三郎博士です。病理学の先生ならご存知だと思いますが、彼は世界で初めて人工発がん実験に成功しました。毎日ウサギの耳にコールタールを塗り、8年目にして発がんが成功しました。同じ頃、山極先生より少し前にデンマークのフィゲル博士が寄生虫を用いてネズミの胃の発がん実験に成功し、結局はフィゲル博士だけが単独でノーベル医学賞を受賞しました。しかしその後の追試実験でフィゲル博士の

発がん実験でできた病変はがんではなくビタミン欠乏症による病変であったことがわかりました。そのため今でも山極博士のことを「幻のノーベル受賞者」と呼んでいます。山極博士の残した言葉に「がん出きつ、意気昂然と二歩、三歩」があります。研究マインドを高く持って、焦ることなく地道に研究を続けられればおのずから結果が見えてくるという意味でしょうか。皆様方には野口博士や山極博士のように地道に臨床や研究を続けられ社会に貢献できる医療人になっていただきたいと思っております。

私の座右の銘を皆さんは覚えていますか？「死ぬほど勉強して死んだ者はいない。」ですね。努力すれば必ず報われます。必ず誰かが見ていますし、評価されます。

最後に、諸君の卒業をお祝いし、門出の言葉として論語の有名な一節「子曰く、之を知る者は、之を好む者に如かず、之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」を贈ります。医学研究や医療の実践において知っているだけではアマチュア、好きなだけではセミプロ、趣味のように没頭し楽しめるようなればプロと言えるかもしれません。諸君が研究や診療に対して楽しんで向き合っていける医療人にならんことを祈念して医学部長の式辞といたします。



学会案内 ● ● ●

ご案内 第33回日本神経救急学会学術集会 主題 「神経救急・集中治療の教育と実践」

文責／小畑仁司

(第33回日本神経救急学会学術集会 会長、
大阪府三島救命救急センター 所長、学33期)

このたび、第33回日本神経救急学会学術集会を、きたる2019年6月8日(土)～9日(日)の2日間、大阪府高槻市の大阪医科大学看護学部(本部北キャンパス)において開催させていただくことになりました。伝統ある本学会の当番世話人を仰せつかりましたことを大変光栄に存じ、職員一同、鋭意準備を進めております。

今回の学術集会の主題は、近年の教育研修コースの発展を反映すべく「神経救急・集中治療の教育と実践」とさせていただきます。診療科にこだわらずに各科の医師/医療関係者が神経系の救急症例を持ち寄り意見を交換し学術交流をするという、本学会発足時の趣旨を継承するとともに、主題に関連して、本学会と関連の深い、神経蘇生指導者ワークショップ、ISLS(Immediate Stroke Life Support)、およびENLS(Emergency Neurological Life Support)日本語版の開催を企画しています。

神経蘇生研修指導者ワークショップは、今回開催するISLSや、PSLS(Prehospital Stroke Life Support)、PCEC(Prehospital Coma Evaluation and Care)など、神経蘇生研修の指導者養成のための企画です。ISLSは、脳卒中初期診療のための神経蘇生のシミュレーションコースで、主な対象は医師、看護師、救急隊員です。各々、ガイドブックが出版されています(神経蘇生研修指導者ガイドブック[2018年12月発刊]、ISLSガイドブック2018[2018年5月発刊])。



ENLSは、米国 Neurocritical Care Society(NCS)による神経蘇生コースで、救急で遭遇する頻度が高く重要な14の傷病と病態を学びます。今回はNCS公認の日本語ライブコースで団体割引が適応されます。受講者は1年間ホームページにアクセスしてテキストやスライド集などの閲覧、ダウンロードが可能で、クイズに合格すれば正規の修了証を得ることができます(教材は日本語に翻訳されています)。

また、今回は、本学会と学術提携をしているNCSの第2回アジア・オセアニア支部会が永山正雄会長のもと同じ会場で開催されます。NCSの先生方から神経救急・集中治療における最新の情報について講演をいただき、8日(土)の夕刻には軽食を用意してエキスパートの先生方と親睦の場を設けます。

大阪では、6月末にG20サミットが開催され、2025年の大阪・関西万博の開催が決定いたしました。この機会に神経救急医療に携わるすべての皆様に化学テロについて知っていただきたく、富山大学の奥寺先生に特別講演をお願いしております。

学術集会の詳細につきましては下記ホームページをご覧ください。

<http://jne33.umin.ne.jp/index.html>

このたびの学術集会において、神経救急に携わるさまざまな診療科、職種の皆様が一堂に会して熱い議論を交わし、情報を共有されることにより、わが国の神経救急・集中治療の発展に貢献できますようお願いしております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

支部だより

仁泉会福井県支部だより

文責/原隆(学47期)

仁泉会福井県支部総会が平成30年11月10日(土)に開催されました。今回で第30回になります総会が行われた場所は、福井市にある旬味泰平という福井では美味しいことで有名な料亭です。本会は毎年ほぼ11月頃の開催となっており、当日は合計11名の同窓諸兄姉の参加がありました。例年に比し非常に多くの先生に参加していただき、幹事としては非常にありがたい反面、席が狭くなってしまい大変申し訳ありませんでした。

近年ご参加いただいているのが、福井赤十字病院外科勤務で学39期の川上義行先生、福井総合病院など勤務されている学47期の清野智恵子先生、福井愛育病院勤務で学53期の山本輝先生、福井大学病院泌尿器科勤務で学59期の谷尾信先生の4名です。また、今回当会初参加の先生が1名来ていただきました。現在福井赤十字病院泌尿器科に勤務している、学58期の品川友親先生です。ご参加くださる先生方が増え益々会が賑やかになってきましたこと、幹事としては大変嬉しく思います。



先生方が集まったところで、総会を始めさせていただきました。始めに会長の安井多喜雄先生(学23期)に挨拶をしていただき、幹事の私が昨年の収支報告など一般的な報告をさせていただきました。先生方からの積極的な発言などをいただき、とても充実した会になりました。報告が終わって写真撮影が行われました。

次はいよいよ宴会です。次から次へと出てくる美味しい料理、お酒に舌づつみを打ちながら会話も弾み、あっという間に時間が立ってしまいました。来年からも、美味しい料理を予算内で用意させていただきたいと思えます。

今年(H31年)も同時期に開催される予定です。本会は堅苦しい会ではなく、年1回先輩後輩の元気な顔を見ておしゃべりしながら、安く美味しいものを楽しんで食べよう的な気軽な会です。今回参加していただいた先生方はもちろん、次回は新しい福井県在住、在職の先生方の参加も心よりお待ちしております。今後も開催させていただいた折にはご報告させていただきます。なお、当日の参加者は以下のとおりです(敬称略)。

- 青山文代(学21期) 安井多喜雄(学23期)
- 加藤佳典(学24期) 津田明美(学31期)
- 松本順雄(学34期) 川上義行(学39期)
- 清野智恵子(学47期) 原隆(学47期)
- 山本輝(学53期) 品川友親(学58期)
- 谷尾信(学59期)

支部だより

報告 京都仁泉会学術講演会 平成31年2月9日 於：京都ホテルオークラ

文責/寺村和久(学37期)

先日、2月9日、京都ホテルオークラにて京都仁泉会学術講演会が開かれました。松本恒司会長の開会の辞の後、岩野正宏先生が座長をされ、蘇生会総合病院 副院長 河野龍而先生より、「高齢者循環器疾患診療の現状と今後の展望-抗凝固療法を踏まえて」の御講演を賜りました。勉強になる多岐にわたるお話で、内容も濃くそのすべてを記載することができません。以下に、ご講演の要旨をまとめました。

1: 高血圧

65歳以上でも血圧 130/80 以下に下げる。ただし、低血圧による syncope や急性腎障害を考え、収縮期血圧120以下、あるいは拡張期血圧60以下には下げないこと。80歳以上やフレイルの例は、ACE、ARB、カルシウムブロッカー、単剤で降圧するのが望ましい。心不全合併例はβブロッカー。心房細動ではβブロッカー、ヘルベッサ、ワソランの使用。

2: 心不全

LVEFの低下した心不全(heart failure with reduced ejection fraction: HFrEF)はEF<40%で収縮不全が主体。

LVEFの保たれた心不全(heart failure with preserved ejection fraction: HFpEF)はEF≥50%で拡張不全が主体。有効な治療が確立されていない。高齢者に増加。Strokeがおきやすい。NT ProBNP>400 か、BNP>100 で専門医へ紹介。息切れに対し利尿剤の使用が中心。

3: 心房細動

血栓のリスクはCHA2DS2-VAScスコアでチェック。HAS-BLED 出血リスクスコアで出血の副作用をコントロール。70歳以上のAf患者はDOACが有効。DOACが使用できないなら左心耳閉鎖デバイスも検討。Afのリズムコ

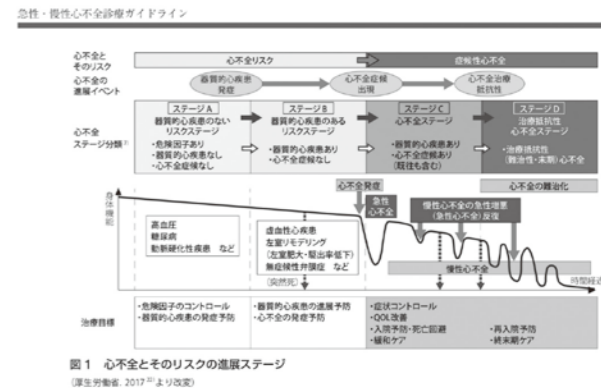


図1 心不全とそのリスクの進展ステージ

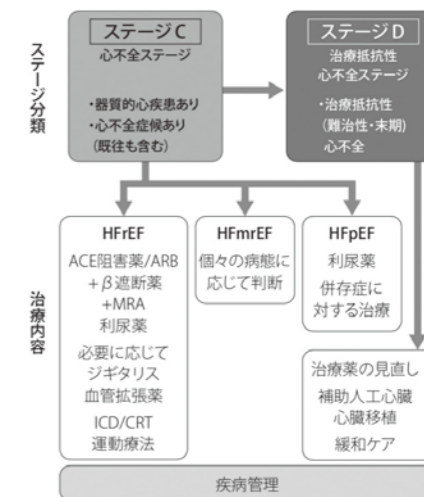
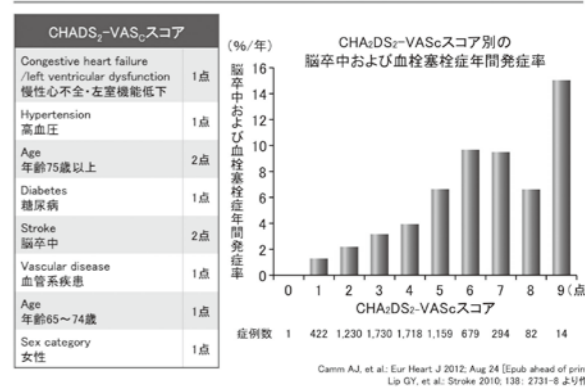


図10 心不全治療アルゴリズム

ESCガイドライン CHA2DS2-VAScスコア



ESCガイドライン HAS-BLED出血リスクスコア

文字	臨床特性	ポイント
H: hypertension	高血圧	1
A: abnormal renal/liver function	腎臓・肝臓の異常(各1ポイント)	1 or 2
S: stroke	脳卒中	1
B: bleeding history or predisposition	出血	1
L: labile INR	INR変動(不安定・高値)	1
E: elderly	高齢(>65歳)	1
D: drugs/alcohol concomitantly	薬物またはアルコール(各1ポイント)	1 or 2
		最大9ポイント

● 高血圧: 収縮期血圧>160mmHg
 ● 腎臓病異常: 慢性腎臓病または腎臓病を患っているまたは血漿クレアチニンが200μmol/L以上
 ● 肝臓病異常: 慢性肝臓病(例えば肝硬変)、顕著な肝臓病の生化学的検査値異常(例えばγ-GTP、正常値上限2倍超、AST/ALT:正常値上限の2倍超など)
 ● 出血: 出血の既往および/または出血しやすい、例えば出血性疾患、貧血など
 ● INR変動: 不安定なINRまたは治療域にある時間が短い(例えば<60%)
 ● 薬物またはアルコール: 例えば抗血小板薬、非ステロイド消炎鎮痛薬の併用またはアルコール中毒
 参考: Camm AJ, et al. Eur Heart J 2012; Aug 24 [Epub ahead of print].
 Peters R, et al. Chest 2010; 136: 1093-1100
 Lip GY, et al. Stroke 2010; 138: 2731-8 より作成

ントロールは、基礎疾患がないなら classI 抗不整脈薬を使用。虚血性心疾患、弁膜症、心不全があるならアミオダロンを使用。

4：フレイル（虚弱）、低栄養、サルコペニア

心不全を合併したサルコペニアの入院が多い。高タンパク・高栄養の食事が必要。タンパク質の同化抵抗性が上昇しタンパク再利用率が低下しているため。有酸素持久運動は遅筋を、筋力トレーニングは速筋を鍛える。

5：Cure から Care へ

慢性心不全の終末期は、急性増悪の繰り返し。病院での循環器専門医のみでは限界がある。開業医との連携はもとより多職種協働が必要。

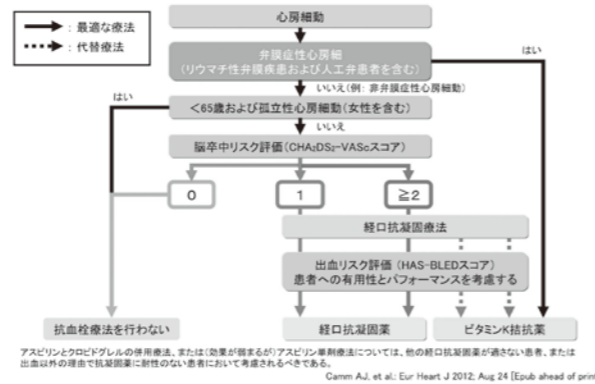


上記は今回の講演の一部です。内容が濃いこともあり、講演後の質問も多数ありましたが、一つ一つ丁寧に質問にお答えいただきました。

今回、河野龍而先生のお話を拝聴されることで、大阪から、元外務大臣 中山太郎先生にもお越しいただきました。本当にお元気で、このあとの懇親会にも中山先生にはご参加いただき京都仁泉会が引き締められました。

全体集合写真のあとは、いつも通り、待ちかねた懇親会。会長の松本恒司の司会は本当に盛り上がります。また今回は、特記すべきこととして、大阪医大の学生、西村直緒己君も参加してくれました。卒業する前から仁泉会に参加できるようで、今後は学生さんたちにも参加して頂き、先輩・後輩といった縦の繋がりがしっかりしたものとなるよう期待します。次回も多数の先生方のご参加をお願いいたします。

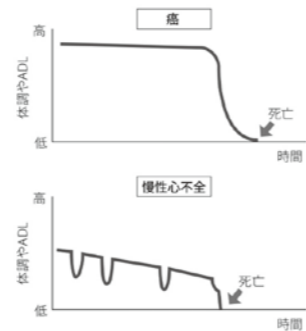
ESCガイドライン2012 心房細動における抗凝固薬の選択



フレイルの評価方法 (J-CHS基準*)

Table with 2 columns: '項目' (Item) and '評価基準' (Evaluation Criteria). Items include '体重減少', '筋力低下', '疲労感', '歩行速度', and '身体活動'. Evaluation criteria are based on the number of items met (0: Normal, 1-2: Pre-frail, 3+: Frail).

多職種連携



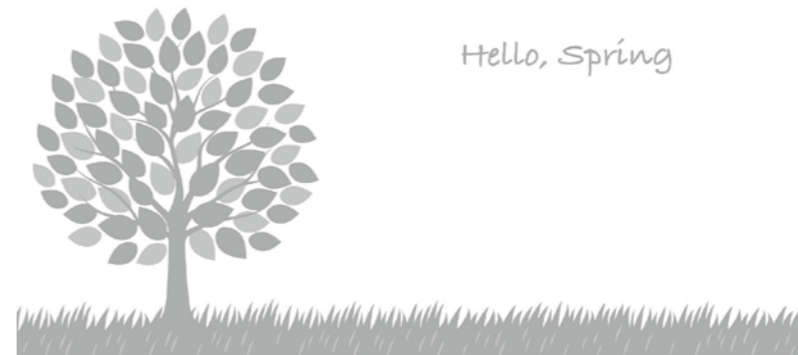
慢性心不全は、癌とは異なる病みの軌跡を辿り、急性増悪による入院を繰り返しながら、最期は急速に悪化するため、終末期の判断がしばしば困難である。 図16 慢性心不全と癌の終末期に至る経過の比較 (Lynn J. 2001より改変)



出席者名 (敬称略)：

- 中山太郎 (来賓) 内田 實 (学12期) 太田 稔 (学12期) 大澤 直 (学14期) 島田真久 (学14期) 勘田紘一 (学15期) 今村喜久子 (学17期) 竹内宏一 (学18期) 吉川順介 (学19期) 藤田さみゑ (学20期) 大藪 博 (学22期) 富岡 暁 (学22期) 舟木 亮 (学22期) 田代 博 (学23期) 西本 孝 (学23期) 森本博子 (学24期) 浅田修二 (学25期) 石原 正 (学25期)

- 松本恒司 (学26期) 北岡治子 (学28期) 萩原暢子 (学28期) 岩野正宏 (学35期) 河野龍而 (学35期) 戸田勝典 (学36期) 寺村和久 (学37期) 柏木元実 (学39期) 岡本文雄 (学40期) 尾野真弓 (学40期) 米林功二 (学40期) 水田成彦 (学42期) 山内宏哲 (学42期) 宮田正年 (学43期) 塩見聡史 (学44期) 佐々木良雄 (学48期) 寺本邦洋 (学55期) 西村直緒己 (学生)



支部だより●●●●

平成31年仁泉会大阪市北区支部総会懇親会の報告

文責／末澤慶昭（学19期）

平成31年2月23日（土）例年通り2月最終土曜日に大阪東急REIホテル（旧東急イン）に於いて開催されました。

本年も河野公一仁泉会理事長をお迎えし、計17名の出席のもとでの開催でした。

学38期太田祥彦先生の司会進行のもと開催の挨拶に続いて、河野公一理事長のご挨拶を頂きました。

ごく近い将来、母校「大阪医科大学」の名称が「大阪医科薬科大学」に変更される旨、お聞きし、出席者一同に異口同音に驚きの声が発せられました。

例えば「創立100周年記念事業の一つとして

単科大学からさらに発展することはすばらしい」又一方では「履歴書には何と書けば良いのか？」孫にも「ウソー、ジイチャン大阪医科大学なんていう大学あれへんで」等々。

会計報告に続いて学20期黒川彰夫先生の乾杯の発声のもと、楽しい開宴となりました。

各テーブル順に出席者から近況報告をいただき、北区内での病診連携・病々連携・診診連携での情報交換が活発に行われ、大変楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

学21期古林光一先生の中締め挨拶に続き、一同記念撮影の後、次回の再会を約し、散会となりました。

欠席会員で前北区支部長を長期にわたりお願いしておりました、学12期中村満次郎先生には御令室様より、「家庭では元気で楽しく過ごしているが、会場まで行くのが負担」と近況報告もお知らせ下さいました。

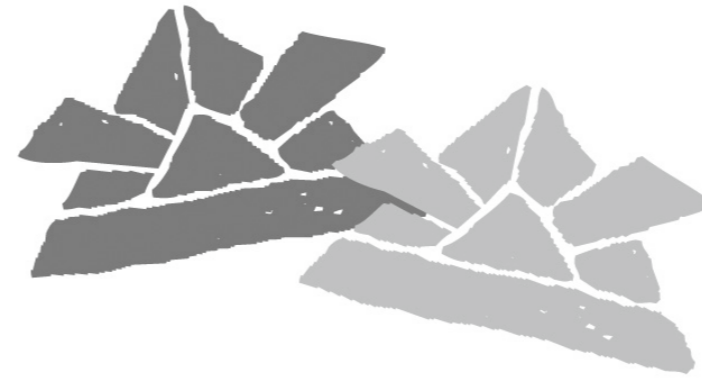
また学51期の北区会員の先生で大切な所用があったにも関わらず、出席の返事を送付し後

で気が付き、仁泉会事務局への報告と支部長へのお詫びと欠席の連絡をいただきました。

北区以外の仁泉会員（勤務先が京都市、住居が奈良県）で「河野理事長に進路相談で大変お世話になり、お会いしてお礼を直接申し上げたい」との御希望で、北区在住の会員を通じて出席の可・不可を聞いてこられ、出席いただいた先生もおられました。

出席者（敬称略）

河野公一（学21期）末澤慶昭（学19期）
黒川彰夫（学20期）古林光一（学21期）
忌部実（学25期）片岡晃哉（学26期）
大原裕彦（学31期）千福恵子（学32期）
本出肇（学34期）安田守孝（学34期）
松谷泰男（学37期）太田祥彦（学38期）
高木雄久（学39期）中田幸子（学39期）
藤平隆宏（学44期）神吉佐智子（学48期）
中根英策（学48期）



「大阪医大女医会からのご案内」

緑が目にも美しい美しい季節となりましたが、先生方におかれましてはご清祥のこととお慶び申し上げます。

「第32回各科医療勉強会」を下記のとおり開催致します。旧友や部活の先輩・後輩と楽しいひと時を過ごす機会となることを祈念しております。

なお、ご出欠のご連絡は4月25日に締め切っておりますが、ご参加を希望される場合にはお問い合わせください。

記

日時：2019年6月8日（土）午後6時より

場所：ホテルグランヴィア大阪 20階

会費：15,000円

講演：「骨粗鬆症の疫学」

大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室 教授 玉置淳子先生

連絡先：仁泉会内 大阪医大女医会事務局

omc-women@jinsenkai.net

担当幹事 相馬葉子（学38期）神吉理枝（学44期）神吉佐智子（学48期）



後列左から 神吉佐智子、片岡晃哉、高木雄久、大原裕彦、太田祥彦、安田守孝、藤平隆宏、忌部実
中根英策、本出肇、松谷泰男

前列左から 千福恵子、古林光一、末澤慶昭、河野公一、黒川彰夫、中田幸子

支部だより●●●

平成31年仁泉会東大阪支部 新年総会報告

文責／三宅直子（学28期）

仁泉会東大阪支部の新年総会が平成31年1月14日（月）リッツカールトンホテル大阪にて開催され、今年も河野公一仁泉会理事長が来賓として参加されました。佐藤公彦先生、金城武忠先生、恒川恵治先生、大西洋一郎先生、龍野光蔵先生、三宅裕治、直子の8名の出席でした。

さて、東大阪支部会長の大西洋一郎先生より開会の辞と会計報告の後、今年の6月小旅行について6月9日（日）の予定だけでもまだ場所は未定とのことでした。次に河野公一先生のお話は仁泉会地方会の活性化を進めていること、医師の働き方改革について、大阪医大創立100年にむけて臨床講堂を建て替え14階の高層病棟にするという計画について等でした。私たちの学生時代から慣れ親しんだ臨床第一、第二講堂がなくなるのかと、ちょっと寂しい気持ちになりました。駐車場ももっと広くならないかという質問にYMCAの所に駐車場を考えているとのことでした。その後龍野先生の乾杯の発声

のあと、いつものとおり和やかに会食が始まりました。河野先生からは非常に興味深いお話もたくさんありました。1つ目は現在日本に外国人労働者が増えているけれどベトナムやタイでは人口の10%が結核にかかっているとのこと、患者さんとして来られた時は結核を調べることが必要であるとのことでした。2つ目は現在インフルエンザが流行しているが日本でのインフルエンザの流行は冬だけではなく夏も増えているとのことでした。その理由は日本の夏は南半球では冬であり南半球からの旅行者からの感染とのことでした。3つ目は狂犬病についての話で、日本では狂犬病は犬への予防注射で絶滅しているが海外ではそうではなく、犬に噛まれたらすぐ大使館に行き直ちに処置をする必要があります。狂犬病の潜伏期間は2年なので、放置したことにより帰国して2年後に死亡したケースがあるとのことでした。コアラを抱っこしてひっかかれても危険だと聞きぞっとしました。あれやこれや話は続きましたが6月にまたお会いすることを約束して盛会のうちにお開きとなりました。

出席者（敬称略）

河野公一（学21期）大西洋一郎（学25期）
佐藤公彦（学12期）恒川恵治（学17期）
金城武忠（学16期）龍野光蔵（学31期）
三宅直子、裕治（学28期）



支部だより●●●

平成30年度 仁泉会香川県支部総会のご報告 平成31年3月23日（土曜日） 於 高松国際ホテル 寿の間

文責／安賀文俊（学51期）

仁泉会会員の先生方におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

去る3月23日、高松市内の《高松国際ホテル 寿の間》におきまして、恒例となりました仁泉会香川県支部総会を開催しましたので、ご報告いたします。

今回は19名の先生方に参加していただきました。

幹事の伊達学先生の司会で始まった会では、まず1月に鬼籍に入られた林雄俊先生（学7期）に全員で黙祷を捧げました。ついで、支部長の石田達也先生より、ご挨拶をいただきました。仁泉会総会の報告、大阪医科大学附属病院の昨今の状況、他の地域の仁泉会支部会の活動状況、

先日お誘いいただいた大阪医科大学香川県人会の様子などをお教えいただきました。

大西正則先生のご発声による乾杯の後、楽しい遊宴が始まりました。

昭和62年の仁泉会香川県支部の集合写真を大西正則先生がお持ちくださっており、懐かしい会員の先生方について話題が盛り上がりしました。当時の集合写真には、後に大阪医科大学の第七代学長になれる島田真久先生（学14期）が、香川医科大学（当時）の解剖学教授としてご活躍されていたお姿も写っていました。

話題としては、昨今の保険診療についてとか、香川県を取り巻く医療事情とか、大学病院との紹介連携についてとか、ムズカシイお話がなされていました。

ただ、途中、形成外科医としての田中嘉雄先生と、栄養療法研究者としての桑島靖子先生のお二方による Beauty care に関する対談（？）が始まり、色々とアレコレ気になりだした先生方も加わって皮下脂肪対策やお肌の care、anti-aging など、盛んな（??）議論が交わされたときが、一番盛り上がったようでした。

石井宏典先生の中締めのご挨拶にて、盛況の内にお開きとなり、次回の支部総会での再開を

学部43期同窓会のご案内

学部43期の同窓会を下記の通り開催致します。今からご予約にお加え頂きますようお願い申し上げます。

記

日時：令和元年7月6日（土）午後6時より

場所：ホテルグランヴィア京都（075-344-8888）

〒600-8216 京都府京都市下京区烏丸通塩小路下ル JR 京都駅中央口

なお出欠の有無について、1 一次会から出席 2 二次会から出席 3 欠席

を5月25日（土）までに御連絡下さい。

連絡先：der041@osaka-med.ac.jp 黒川晃夫

幹事 黒川晃夫、藤田佳史

約束しつつ、有志で二次会へと繰り出して行きました。

今回は、平成最後の仁泉会香川県支部総会でした。今年度は新メンバーの加入はなかったですが、新元号に変わってからの次回支部総会ときには、誰か新会員の加入をご紹介できれば嬉しいなあと思っております。

参加者（卒業年次順、敬称略）

- 大西正則（学12期） 石井宏典（学13期）
- 中野和男（学19期） 合田吉徳（学21期）
- 石田達也（学28期） 田中嘉雄（学28期）
- 檜村雅典（学29期） 谷本佳貞（学30期）
- 伊達学（学31期） 後藤真樹（学32期）
- 大谷昌裕（学40期） 桑島靖子（学43期）
- 伊槻卓哉（学48期） 安賀文俊（学51期）
- 大森信介（学53期） 小橋祐子（学53期）
- 大北仁裕（学54期） 三浦欽之（学54期）
- 和泉賢一（学58期）



大阪医大六甲会のご案内

大阪医大六甲会を下記の通り開催致します。今からご予約にお加え頂きますようお願い申し上げます。

記

日時：令和元年6月15日（土）午後6時より

場所：元町中国料理 東光（とうこう）(078-392-0320)

〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通1-13-11 新光ビル2F・3F

会費：医師：16,000円 学生：無料

なお出欠の有無につきまして、6月3日（月）までに必ず御連絡下さい。

連絡先：der041@osaka-med.ac.jp 黒川晃夫

幹事 黒川晃夫

支部だより

平成31年度大阪医大仁泉会 高知県支部新年会及び総会報告

文責／市原直子（学24期）

平成31年2月16日（土）少々遅めの新年会が「希満里」で開催されました。例年のごとく会長挨拶、会計報告が型どおり、全会員の異議もなく厳かに遂行されると、本番の宴が待ってましたとばかりに始まりました。他の支部の様な講演会やミニコンサートのような余興もありません。堅苦しさを苦手とする土佐人はお酒を酌み交わせれば仲間です。最長老の武井先生を尊敬しながらも若手ですら気後れすることのない会です。いつものメンバーがいつも通り盛り上がっていく中、本会員の学部24期の内田博久先生が長年の産婦人科医療に貢献した業績で厚生労働大臣表彰を受賞されたという嬉しい報告がありました。開業以来24時間一日も休むことなく小さな命をこの世に送り出した、誰にも

まねの出来ないこの行為に頭が下がります。実は筆者、小・中・高・大学と一緒にいた、その頃の「内田くん」に今ある「内田先生」を想像もしませんでした（見る目がない!!）。心からのお喜びを大きな拍手と共に送りました。久々に学部27期の武田京子先生が出席。聖路加病院を退職、結局しばらくは高知に帰らず、東京で第二の人生を始める、高知とは少し距離が出来ることが淋しいとの報告に「ふるさは高知、いつでも帰ってきて」とみんなでエールを送りました。

宴もたけなわとなり、ふと気づくとやはり高知県支部の高齢化はお酒の飲み方にも変化をもたらしています。足腰が弱った先生が多いのか椅子席、かつてのようにお銚子を持って、座り込み議論をふっかける姿が消え、好々爺になっています。出席予定の澤田久先生、荒木京二郎先生の両先生は当日体調を崩し、欠席となりました。これからこういう展開が増えそうで危機感が強いのですが、その中で会長の濱脇先生については総会に出席できる限り（筆者の見解では命ある限りです）支部長を続けることが満場一致で決まりました。高知の顔としていつま



でもお元気でいてもらいます。来年もだいたい同じ顔ぶれでしょうが、今年は物故者がいなかったように来年も誰一人欠けることなく集まることを誓って平成最後の新年会・総会はつがなく閉会となりました。

出席者
 武井廉平（学3期） 濱脇弘暉（学11期）
 刈谷隆明（学22期） 土居秀策（学22期）
 市原直子（学24期） 疋田隆雄（学24期）
 内田博久（学24期） 枝重恭一（学26期）
 高島正樹（学28期） 武田京子（学28期）
 前田隆（学30期） 赤松順（学33期）
 川田誠一（学34期） 竹中英喬（学54期）
 町田崇博（学56期）

学部26期同期会のご案内

親愛なる同級生の皆様ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。卒後40年余無事にここまで過ごせたことご同慶のいたりです。さて、予定しておりました同期会を下記の要領で開催いたしたくご案内申し上げます。奮ってご参加ください。なおご家族様のご参加も大歓迎です。

記

日時：2019年10月26日（土）18時～、二次会21時～

場所：ホテルグランヴィア大阪

大阪市北区梅田3-1-1

Tel：06-6344-1235

会費：一次会 10,000円/人、二次会 3,000円/人

ご出席の方は予め下記口座にお振込みください。

お申し込み後のキャンセルは10月15日までは全額返金致します。

りそな銀行江坂支店（普通）264068 行村純

当日の同ホテルの宿泊のご希望ありましたら下記要領で仮予約していますので行村までご連絡ください

シングル（5部屋）14,200円、ツイン（2部屋）24,200円/2名

大阪医科大学学部26期同期会幹事

西律・山本祐三・行村純

Tel:090-1674-0150

メール：dr.pure@lily.ocn.ne.jp

受賞報告

内田博久先生（学24期）が下記の表彰を受けられました。
 母校同窓会として慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

祝・受賞！ 学部24期 内田博久先生 平成30年度 厚生労働大臣表彰



受賞祝賀会にて。写真左／発起人代表 高知県産婦人科医会会長 濱脇弘暉先生（学11期）
 写真右／市原直子先生（学24期）

各地で喜びの受章・受賞等あれば、事務局宛書面、新聞などをお送りくださるか、原稿をお届けください。
 本誌にて広く紹介させていただきます。

役員就任

〔奈良県支部〕

新支部長 中尾重昭先生（学22期）

気になるあの場所・あの人に 編集部がジャストミート!

母校に女性医師支援センターが開設されました

センター長の神崎裕美子先生と 副センター長の喜田照代先生に センターの「これから」について聞きました

—女性医師支援センターが立ち上がった経緯を教えてください。

神崎先生 厚生労働省による「医師の働き方改革」の下、出産・育児・介護といったライフイベントを迎える女性医師に対してキャリア形成支援を行うことを目的に発足しました。

—センターの構成員はどのように決められたのですか？

喜田先生 実際に患者さんを診ている常勤の臨床女性医師が多く、診療科も偏りがないようなメンバーで構成されました。

—実際に稼働させてみて何か困ったことはありますか？

喜田先生 私が本当に参加してもよかったのかな？という思いはあります。ほとんどの方がそうだと思うのですが、自分自身「働き方改革」というものを意識したことがなかったんですね(笑)。患者さんのことを第一に考えると、どうしても時間外勤務をしたり長時間勤務になってしまうのですが、このままではいけないと思うので、皆さんに有効に利用していただけるような良い提案ができればと考えています。

神崎先生 困ったことというか、実際に利用されている先生がほとんどいないのが悩みですね。産休・育休を利用している先生は数名いらっしゃるのですが、短時間勤務制度に至ってはまだお一人しかいません。特に若い先生は自分からは言いづらいだろうとは思っています。

—何か対策はあるのでしょうか。

喜田先生 まずはこういう制度があるということを知っていただくことですね。「Smart News」というニュースレターを毎月260枚ほど発行して、院内や各部署に配布していますが、浸透させていく為にはまだまだ努力が必要だなと感じています。

神崎先生 各診療科長、医局長にまずどのような制度があるか知っていただくことが大事ですね。男性医師をはじめ、周りの理解や協力がないと、なかなか自分からは手を挙げづらいですから。そしてどこかの診療科がまずやってみて、「制度を使って良かった」というような声が上がってくれば、他の診療科にも広がっていくかもしれません。



女性医師支援センターが毎月発行する「Smart News」。

昨年7月から院内で掲示されています。



左から事務の生田統子さん、神崎裕美子センター長、喜田照代副センター長

—制度を充実させるために取り組んでいることはありますか？

喜田先生 先日関西医大との交流会としてお話を伺いに寄せていただき、その後院内の見学をさせていただきました。先進的に取り組んでおられるので大変勉強になりました。

神崎先生 細かなことですが、当直室が充実していましたね。ちょうど大阪医大の新棟の建築計画で女性専用の当直室がなくなるという話が出ているところだったので非常にタイムリーでした。もちろん関西医大で学んだことは病院建築チームに伝え「やっぱり作ってほしい」とお願いしてきました。また都道府県ごとにどういった支援が必要なのかということも、昨年、全国医学部長病院長会議の傘下である都道府県女性医師等キャリア支援連絡協議会で話し合いました。そこで行政からの支援も必要になってくると感じたので、これから進めていくことができればと思います。

—今後はどういったことを充実させるべきとお考えですか？

神崎先生 まずは2019年度に開設予定の託児制度です。既存の院内保育室(バンビ保育室)を活用して始めたいと考えています。

喜田先生 時短勤務に関しては、以前はレジデントの利用は不可でしたが、この4月から使え

るようになりました。同じようにさらに利用者が増えていけば、もっと使いやすい制度にできるかもしれません。繰り返しになりますが、私たちがもっと周知に努力して、使いやすい環境を整えないといけないと思います。

神崎先生 お金がかかることなので、そんなにすんなり行くとは思っていません(笑)。でも、まずは使ってもらおう。そして声を上げていただく。そうすれば皆が動かざるを得なくなり制度も拡大していくと思うので、ぜひ協力していただきたいです。

喜田先生 お問い合わせや質問だけでも結構ですので、よろしくお願いします。

—仁泉会の先生方にひと言お願いします。

神崎先生 仁泉会の先生方の中で復職を希望されている先生がいらっしゃれば、復職の支援も今後力を入れていきたいと思っていますので、ぜひお問い合わせください。ご希望があれば各診療科の窓口とつなぐことは可能です。また、どんな小さなことでも構いませんので、ご意見やご希望がございましたらご連絡をお願いいたします。

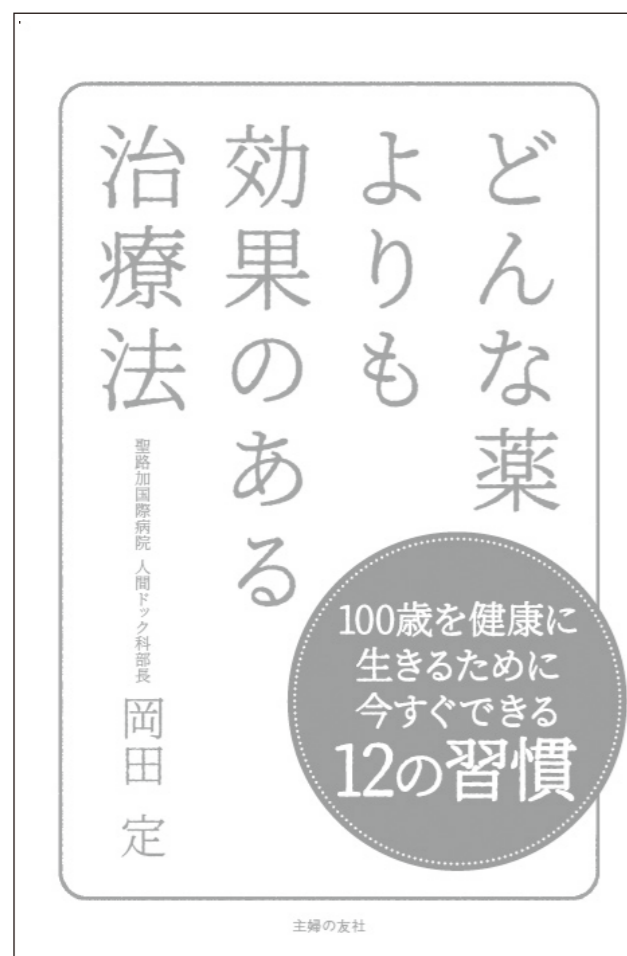
女性医師支援センターホームページ

<https://omc-smart.jp>

e-mail smart@osaka-med.ac.jp

tel 072-684-6222 (直通)

会 員 著 書



「どんな薬よりも効果のある治療法」 (主婦の友社) のご紹介

文責／岡田 定 (学30期、聖路加国際病院
人間ドック科部長)

「どんな薬よりも効果のある治療法」って、何だと思われませんか。「そんな治療法なんてあるわけないでしょう」と思われませんか。いえ、あります。それは、「生活習慣を改善して健やかに生きること」です。「健やかに生きること」を実践すれば、そもそも薬を使うべき病気にはなりません。たとえ病気になっても、病気の根本原因の「生活習慣を改善」すれば、どんな薬よりも効果があるのではないのでしょうか。

私は1981年に大阪医大を卒業し、聖路加国際病院で医師の研修を始め、30数年間、血液

内科医として白血病やリンパ腫などの患者さんを診療してきました。それこそ、シタラビンからシクロホスファミド、プレドニゾロンまで、多くの薬を使ってきました。しかし長年、血液内科医を続けるなかで、どんな薬よりも効果のある治療法があることに気がつきました。「生活習慣を改善して健やかに生きること」です。それこそが、寛解になった白血病の再発予防にも、患者さんが新たな疾患になるのを防ぐにも、最も効果のある治療法だと信じるようになりました。

2016年に血液内科から人間ドック科(宿泊人間ドック担当)に異動しました。病気を治す世界から病気を予防する世界への異動です。血液内科という狭い世界から全科対応の人間ドックの世界に移り、実社会で精力的に活躍されている多くの方にお会いしました。そういうなかで、「身近な患者さんだけでなく、世の中の多くの人に役立つ本を作ろう」という思いが生まれました。

世間には、「〇〇を食べればよい」的なピンポイント健康法が溢れています。でももっとトータルな視点が必要だと感じます。身体的な視点だけでなく、精神的、社会的、霊的な視点も必要だと考えます。人生100年時代を迎え、健やかに生きて健康長寿を達成するにはどうすればよいのか、迫り来る死に対してどう向き合えばよいのか、読者に直接話しかけるように執筆しました。

本の中で、12の生き方を提示しています。「1. 健やかな生活習慣を身につける」、「2. 病気を予防する」、「3. 健やかで幸せに生きる」、「4. 自然治癒力を引き出す」、「5. 健やかな食生活を身につける」、「6. タバコをやめてお酒と上手に付き合う」、「7. 運動習慣を身につける」、「8. 健やかな睡眠を身につける」、「9. ストレスと上手に付き合う」、「10. 精神的・社会的にも健やかに生きる」、「11. 精神的に豊かに生きる」、「12. 死を忘れない」。

エッセンスをまとめれば、①腹八分目で、糖質・肉・脂質・塩分を減らし、野菜を増やす食習慣を身につけること、②毎日の運動習慣を身につけること、③年をとることを肯定的に考えること、④人生の最期まで社会的な関わりを持ち続けること、になります。

現代医療は病気を治すことに汲々としています。でも、病気を治すことにこれ以上の資源(時間、エネルギー、お金)を投入しても、みんながもっと健やかで幸せになるのは難しいのではないのでしょうか。

もし病気を発症する前に、たとえ病気を発症してからも、「みんなが生活習慣の改善に取り組み、健やかな生き方を身につければ」どうなるのでしょうか。病気になる人は目に見えて減るはずですが。健康長寿を楽しみ、ピンピンコロリを達成する人がもっとも増えるでしょう。結果的に、病気発症後の診断・治療に必要とされる資源は半減するのではない

でしょうか。

行政や医療の体制が変わるのを待っている、間に合いそうもありません。誰にとっても自分の本当の主治医は自分のはずです。本当に健康になるためには、本人が行動を起こす必要があります。そこで、医療者向けの医学書ではなく、「一般の方に向けて一般書で呼びかけよう」と思い至りました。

これまで、医学書は30数冊を上梓しています。いつもは企画を練り、出版社に掛け合って、出版社のゴーサインが出てから執筆を開始します。でも本書は出版社も決めずに、問題意識に突き動かされるままに執筆しました。

未来の医療には、患者の病気を診断して治療するだけでなく、人が健やかに幸せに生きるのをサポートすることが求められるはずですが。

この未来の医療に共感される仁泉会の先生方にも、「もっと健やかで幸せに生きる」ためにお役立ていただければうれしく存じます。

学23期生(昭和49年卒)同窓会 およびゴルフコンペのお知らせ

●北野博一先生をお迎えして卒後45周年記念同窓会を下記の要領で開催致します。

日時：2019年11月9日(土) 18:00

場所：インターコンチネンタル大阪(大阪駅北グランフロント内)

形式：テーブルバイキング(飲み放題)

同伴：可

宿泊：ホテルは各自でおとり下さい。

世話人：竹中 洋、木下光雄、梶野興三、近藤敬一郎(090-2358-3276)

●49杯ゴルフコンペのご案内

日時：2019年11月10日(日)

場所：コース・スタート時間 未定

同伴：可

世話人：桜本邦男(072-877-7788)

●出欠のお問い合わせは、9月末頃に往復はがきをお送り致します。

新聞切抜

平成29年10月1日		総数	男性	女性
人口 (万人)	総人口(単位未満四捨五入)	12,671	6,166	6,505
	65歳以上人口	3,515	1,526	1,989
	65~74歳人口	1,767	843	924
	75歳以上人口	1,748	684	1,065
構成比 (%)	15~64歳人口	7,596	3,841	3,755
	15歳未満人口	1,559	798	761
	総人口	100.0	100.0	100.0
	65歳以上人口(高齢化率)	27.7	24.8	30.6
	65~74歳人口	13.9	13.7	14.2
	75歳以上人口	13.8	11.1	16.4
	15~64歳人口	60.0	62.3	57.7
	15歳未満人口	12.3	12.9	11.7

平成30年版高齢社会白書から作成

老化の進行速度には個人差があるが、高齢になってくると複数の病気にかかる人も多い。多病の高齢者は複数の医療機関を受診することになり、重複した診察・治療を受けることにもなりかねない。そうしたなか、高齢者に対応する柔軟な医療が求められている。

高齢者特有の疾患を総合的に診療 身の回りや家族の休息支援もケア



熊野 宏二院長

高齢化が進む社会では従来、患者に行ってきた疾病ごとの診察・治療とは異なった取り組みが必要となる。その一つが「老年内科」と呼ばれる高齢者対応の診療科だ。老年内科は単に内科の一部門ではなく、高齢者特有の全身的な機能低下により起こる疾患を総合的に予防し、診察・治療する診療科といえる。

対象とする主な疾患は、加齢などの原因で最近急増している、筋肉量が減少する「サルコペニア」や、健康と障害の間で可逆性のある「フレイル」、認知症、高血圧症、糖尿病、脳血管障害、慢性心不全、骨粗鬆症、老年症候群など全身に及ぶ。

老年内科が関わる範囲は、対象とする疾患の診察・治療だけではない。大阪府淀川区の有床診療所、秀社会クリニックの熊野宏二院長は「最新の医療知識を身に付け、適切な病院への

紹介や在宅診療、患者の身の回りや家族のレスパイト(休息)支援も重要になります」と話している。また、同白書によると65歳以上の一人暮らしと夫婦2人の世帯は、全世帯の56・9%(2015年)。病気になっても家族の介護や支援が受けられない単身高齢者が増えつつある。今後、病院は急性期、回復期、長期療養など機能分化が進み、若い世代は両親が高齢になったときや、自分が高齢になったときの対処を考える必要がある。

多職種一体の取り組みが大切

背景にはわが国の人口構成の変化がある。平成30年版高齢社会白書によると、2017年の65歳以上人口は約3500万人で、総人口に占める割合(高齢化率)は27・7%(約4人に1人)にもなる。表、さらに、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」では、高齢化率は上昇を続け、36年に33・3%で3人に1人となり、65年には38・4%に達して、国民の約2・6人に1人が65歳以上になると推計された。

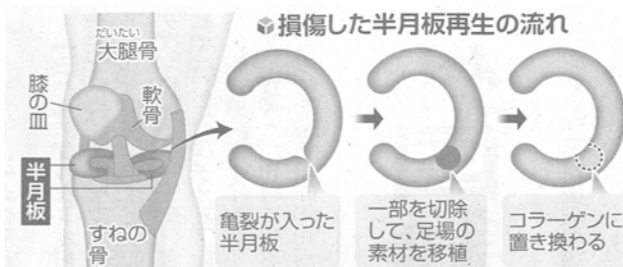
このような状況に対応するためには、患者本人と家

族 高齢者医療に携わる医療・ケアチームが今後の穏やかな人生のあり方や、起こりうる事柄への対処についてあらかじめ話し合う、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を行うことが大切だ。この取り組みによって高度医療や救命処置を希望しない意思を明確にすることもできる。これらの実現には「かかりつけ医」の見解や看護師、薬剤師、ケアマネジャー(介護支援専門員)、ホームヘルパー(訪問介護員)など多

職種との連携が不可欠になる。多職種の連携は、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることを実現するため、国が進める「地域包括ケアシステム」の課題の一つになっている。

「老年内科が対応する疾病には、治療が期待できない疾病もあります。症状の緩和も大事ですが、医療・介護・福祉が一体となった取り組みが大切になります」と熊野院長は強調していた。

★★★2018年11月16日付の産経新聞に熊野宏二先生(学39期)の記事が掲載されました。★★★



スポーツ選手や高齢者に多い膝のけが「半月板損傷」で、傷ついた半月板の再生を促す素材を、大阪医科大学と繊維大手グンゼ(大阪市)のチームが開発した。患部に移植すれば半年で半月板が再生し、素材は体内で分解されることを動物実験で確認。来年にも臨床試験(治験)を始め、2022年春季の承認申請を目指す。神戸市で開かれる日本再生医療学会で、23日発表する。

半月板は、膝の関節にある「C」の字の形をした軟骨のような組織。主成分はコラーゲンで、クッションの役割を果たす。急に強い力が加わったり、加齢の影響ですり減ったりして損傷すると、痛みや引っかかり感などの症状が表れる。国内では年間約2万8000人が損傷部の切除手術を受けているが、組織は再生せず、治療後も膝に水がたまるなど悪化しやすい。

チームは、細胞が立体的な組織を作りやすくする「足場」を設ければ、手術で切除した部位を再生できるのではと着想。グンゼが縫合糸などの用途に開発した無害なプラスチックで、綿状の素材を作った。

この素材を、半月板の一部を切除したブタの膝に移植すると、24週後には、ほぼコラーゲンに置き換わった。チームは、周囲から細胞が入り込んでコラーゲンを分泌したとみている。

グンゼは昨秋、膝の軟骨の再生を促す医療用シートを欧州で製品化している。チームの大槻周平・大阪医大講師は「既に使われている医療用素材を使うため、安全で安価な手法だ」と話す。

半月板再生素材開発 大阪医大とグンゼ 来年にも治験

★★★2019年3月18日付の読売新聞夕刊に母校事業と大槻周平先生(学47期)コメントの記事が掲載されました。★★★

東雲出張版

※「東雲」は文芸部の部誌のタイトルです。



マスカレード・ホテル
著者/東野圭吾

「ホテルにやってくる全員が殺人事件の容疑者」という下調べも出来ない現状の中で、怪しい客から犯人を見つけ出さなければならないという難事件に挑む。

東京都内で起こった殺人事件に残されたメッセージから、ホテルで殺人事件が起こることが判明。犯人逮捕のため人を疑う刑事の新田と、人を信じるホテルマンの山岸という真逆に近い職業の二人がコンビを組むことになる。次から次へと訪れる怪しい客の中から犯人を探す話である。

規律を守る新田と規律はお客様が作るという警察とホテルマンの真逆の対比関係が浮き彫りで、よく衝突していた。ホテルに訪れる人は客の仮面を被り、ホテルの従業員と警察は快適な気分にするような通常のホテルの仮面を被る。そんな仮面舞踏会(マスカレード)のなかで新田と山岸は互いに相手の良さを知り、尊敬することが犯人逮捕という結果につながった。反りの合わないような相手であっても相手の良さを知り、信じるということが必要ではないだろうか?

医学部2回生 文芸部 白川 誠

エッセイ

歴史を彩った女性達 (17)

西村 保 (学4期)

広岡浅子

浅子は京都油小路出水の三井家一門である三井高益の四女として生まれ、17才で大阪の富豪である加島屋の広岡信五郎と結婚して一女の母親となった。

浅子はもともと子供の頃から商売に興味を持ち、母親となってからも独学で簿記、算術、経済、法律などを学んだと云われている。そして20才になった頃、明治維新の動乱で、大名達に借した大金が返済されず、大阪の富豪達は次々に倒産したが浅子は諸藩の蔵屋敷を訪れ、逃げ廻る家老を捕えて「武士道をお忘れか」と説教したり、論語や徳川家康の遺訓まで持ち出して返済を迫った。閉口した家老達はシブシブながら返済したので加島屋は倒産を免れたと云われている。更に浅子は、今後は石炭の需用が増すと考え、九州の鉱山を買い上げて鉱山事業に乗り出した。鉱山では女とあなどった荒くれ男たちに対して懐に拳銃を忍ばせて啖呵を切ったと云われているが、同時に寝食を共にして陣頭指揮を取った上に待遇面でも大幅に改善したのでさすがの荒くれ男たちも感服して全面的に支持に従ったと云われている。

こんな気丈な浅子であったが若い頃は結核を、中年になってからは乳癌を患ったことから生命保険事業に乗り出して、大同生命を創業した。更に日本女子大学の開設に尽力し、生涯にわたって同校を援助した。

このように浅子は類まれな女性実業家であった。



吉本せい

吉本せいは明治22年、兵庫県明石の米穀商の三女として生まれた。小学校を卒業すると北浜の相場師島徳蔵や鴻池家に上女中として奉公した。年季が明けると実家に帰り家業を手伝っていたが、22才の時大阪の荒物商の吉本吉兵衛と結婚した。この夫婦が天満天神裏の文芸館を買収して寄席の経営に乗り出した。そして吉兵衛が死んでからは実弟の林正之助、弘高の協力を得て寄席の事業を拡げ、昭和7年には吉本興業を設立し、女社長として大阪の演芸界に独占的な地歩を固め、映画にも進出した。昭和28年には株式会社に変更し、折からのラジオ、テレビ等による演芸ブームに乗り、横山やすし、西川きよし、桂三枝等の人気タレントを排出し、東京証券取引所第一部に上場し「お笑い産業」なる新語を生み出すなどの優良企業に発展させた。

本部だより
会員訃報

次の会員が亡くなりました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医6期 稲葉虎太郎先生

平成24年ご逝去(93歳)。昭和12年卒。
京都市にて整形外科を開業されました。

高医14期 北村博一先生

平成30年12月6日肺炎の為ご逝去(95歳)。
昭和19年卒。
昭和21年に大阪市にて北村医院(循環器科)をご開業になり地域医療に貢献されました。
昭和33年に県立山口医科大学(現山口大学医学部)より医学博士の学位を授与されました。
ご遺族 長男 豪久様

高医16期 北野英一先生

平成30年7月13日老衰の為ご逝去(93歳)。
昭和22年卒。
昭和23年10月大阪大学耳鼻咽喉科に入局された後、昭和25年6月より公立泉大津市立病院にて勤務されました。昭和45年7月に堺市にて耳鼻咽喉科北野医院をご開業になり、平成30年5月22日までのながきに亘り地元の方々の為に診療をお続けになりました。
ご遺族 長男 康雄様

高医17期 永田耕三先生

平成30年10月1日老衰の為ご逝去(95歳)。
昭和23年卒。
尼崎市にて内科をご開業になり地域医療の為に尽力されました。
ご遺族 長男 昌敬様(学30期)

高医19期 岸本愛二先生

平成30年9月25日呼吸不全の為ご逝去。(90歳)。
昭和25年卒。
母校でのインターンを経て、昭和26年より東

京多摩緑成会病院に勤務されました。昭和29年に岡山大学附属病院整形外科学教室に入局され、昭和36年から広島県立肢体不自由児施設若草園で勤務された後、昭和40年に岡山県真庭市にて岸本整形外科医院を開業され、地域医療に貢献されました。
ご遺族 長男 真様

高医19期 木俣馨先生

平成31年1月4日老衰の為ご逝去(91歳)。
昭和25年卒。
卒業後、国立浜松病院外科に勤務しつつ名古屋大学病理学教室に通われ、昭和32年に博士号を取得されました。昭和39年に浜松市にて外科をご開業になり、地域医療に尽くされました。昭和51年～57年浜松市医師会理事、昭和63年～平成3年浜松外科医会会長、平成11年～15年静岡県外科医会会長、平成11年～12年浜松東ロータリークラブ会長と数々の役職を歴任されました。旅行を兼ねた定期的な同窓会への御出席をととても楽しみになさっておられたとのご長男のお言葉です。
ご遺族 長男 博之様

学部6期 張根宝先生

平成31年2月21日肺炎の為ご逝去(88歳)。
昭和32年卒。
大阪市西成区にて内科・小児科・レントゲン科をご開業になり、地域医療に貢献されました。
ご遺族 長女 久美様

学部7期 林雄俊先生

平成31年1月29日肝不全の為ご逝去(85歳)。
昭和33年卒。
昭和42年5月より香川県丸亀市にてハヤシ外科医院を、平成19年3月より同所にて医療法人社団仁慶会ハヤシ外科内科クリニックを、平成20年8月より医療法人社団仁慶会はやしクリニックを開業され、地域医療に携わっておられました。
ご遺族 妻 玲子様

学部8期 三宅洋之介先生

平成30年1月25日胃癌の為ご逝去(87歳)。
昭和34年卒。

京都市上京区にて内科・小児科をご開業になり、地域医療に尽力されました。
ご遺族 妻 嘉壽子様

学部 14 期 魚橋武司先生
平成30年9月21日ご逝去（80歳）。
昭和40年卒。

兵庫県相生市にて魚橋病院を開業され、地域医療に貢献されました。また、仁泉会役員として会務運営にご尽力いただきました。
ご遺族 長男 哲夫様

学部 14 期 酒井 修先生
平成31年1月24日急性心筋梗塞の為ご逝去（79歳）。昭和40年卒。
昭和46年4月から平成26年8月まで第二酒井診療所を開業された後、同年9月に嵐山さかい医院（内科）をご開業になり、地域医療に携わっておられました。
ご遺族 長男 亮様

編集後記

平成最後の母校卒業式が執り行われました。大概学長、河野仁泉会理事長の式辞を掲載いたしました。新卒業生には今後どのような医師人生を送られるのでしょうか。最近、働き方改革がさかんに喧伝されています。時間外労働の規制もあげられていますが、医師は例外職種の一つになっています。医師、特に研修医、勤務医の先生方に過酷な労働が強いられないことがない

編集部より

会費納入のお願い

年会費
平成31年度 10,000円
平成30年度 10,000円
平成29年度 10,000円
納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

学部 24 期 中倉博延先生
平成31年2月18日脳梗塞の為ご逝去（69歳）。昭和50年卒。
豊中市にて眼科を開業されておられました。
ご遺族 妻 芳子様

学部 27 期 藤崎恭大先生
平成30年9月21日急性肺水腫の為ご逝去（69歳）。昭和53年卒。
卒業後、大阪大学耳鼻咽喉科教室に入局されました。大阪通信病院、市立伊丹病院でのご勤務を経て、平成7年に藤崎耳鼻咽喉科を継がれ、地域医療に携わっておられました。お亡くなりになる2日前まで元気に診療なさっておられたとのこと。診療所は3代目としてご子息様が継承されました。
ご遺族 妻 順子様

ことが望まれます。
26ページには女性医師支援センター設立の記事があります。現在、母校の男女比は約7対3ですが、これは国家試験受験者数からみると全国平均の数字のようです。まだまだ男優位の社会において、女性ならではの事情により、フルタイム勤務や宿直業務が困難なことがあります。勤務形態や環境の整備、待遇面の問題など、課題は多くありますが、男女にかかわらず働きやすいことが重要ではないでしょうか。（治）

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。
ご投稿お待ちしております。
●50巻4号（令和元年7月1日発行）
締切 令和元年5月末日
●50巻5号（令和元年9月1日発行）
締切 令和元年7月末日
●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7
E-mail：jimu@jinsenkai.net FAX：072-682-6636

院長募集

医療法人分院開院のため

診療所：奈良県生駒市南田原町1039
給与：独立採算予定（応相談）

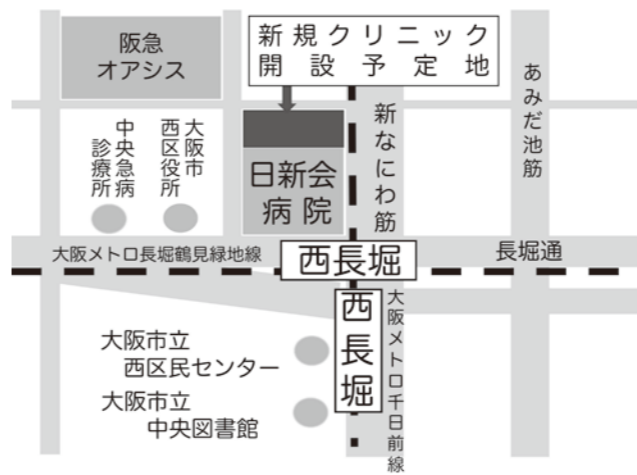


★現在地にて無床診療所として15年間の診療実績
敷地内：小児科・歯科・調剤薬局
駐車場 20台以上
設備：MRI、X-線装置、心電計
電子カルテ等すでに装備済み
2階 「通所」・「介護予防通所」リハビリ

詳しくはお電話にて。
お問い合わせ先
仁泉会事務局
☎072-682-6166

新規開業 テナント募集

★ 2020年4月オープン予定<現在ビル建設中>
★ 場所：大阪市西区新町4丁目1番
★ 坪単価：16000円（相談）



クリニックビルのテナントを募集いたします

*心療内科・精神科
1階（診療所：96平米）+4階（多目的室）
現在6階建てビル建設中
（日新会病院に隣接）

大阪メトロ西長堀駅4C出口すぐ
（千日前線および長堀鶴見緑地線）
長堀通/新なにわ筋鯉座橋交差点北西角
⇒阪神高速西長堀出入口すぐ

開業をお考えの心療内科・精神科の先生方
お気軽にお問い合わせ下さい。

詳しくはお電話にて。
お問い合わせ先
仁泉会事務局 ☎072-682-6166



ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの

医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻

tel: 072-761-8434

医療ビル テナント募集

- ◆場所 大阪市北区中津1丁目11-6
- ◆坪単価 15,000円(相談) ◆保証金(相談)
- ◆共益費 30,000円



クリニックビルのテナントを募集いたします

- ★整形外科・耳鼻科・泌尿器科・美容整形
皮膚科・小児科
- ★3Fエリア【90坪】
- ◆内装美装（自由に改装可）
- 3F 直通エレベーター有
- 1F ガレージ有
- 1F 内科盛業中

- ★地下鉄中津駅前 好立地条件一等地
- ★地下鉄中津駅すぐ人口密

開業をお考えの先生方、
お気軽にお問い合わせ下さい。

詳しくはお電話にて。

お問い合わせ先
仁泉会事務局 ☎072-682-6166
小山 ☎090-1480-5866

開業支援ドットコム

開業をお考えの先生方是非ご相談ください!

- ★ご開業場所の選定・調査 内装・空調等のご相談も承ります。
- ★ご開業時の税理士等のご紹介（弁護士・社労士・司法書士 etc）
ご開業融資のご相談も承ります。各行政への対応可能な有資格者もご紹介
- ★ご開業後の経営・運営のご相談
- ★医療機器・材料等のメーカーとの交渉
医業優先の煩わしい交渉事を一手に引き受けます。

- ◆ご開業時・ご開業後の様々なご相談事に親切・丁寧にご対応致します。
- ◆ご開業をお考えなら下記まで一度ご相談下さい。

お問い合わせ先
開業支援ドットコム株式会社 担当：宮崎 **090-2705-9997**

医療ビル テナント募集

- ◆場所:大阪市浪速区難波中2丁目3-3
- ◆坪単価 12,000円 ◆保証金 家賃の10ヶ月分(要相談)
- * 家賃は共益費込となっております。



クリニックビルのテナントを募集いたします

- ★心療内科・泌尿器科・眼科・耳鼻科
等に最適。
- ★3Fエリア【約40坪】になります。
- ◆内装美装（そのままお使い頂けます。）
- 1F・2F
消化器内科・肛門外科・内科・外科
- 4F
皮膚科・美容外科
- 5F
レディースクリニック
- *各階盛業中

★大阪難波駅徒歩すぐという好立地条件
開業をお考えの先生方、
お気軽にお問い合わせ下さい。
詳しくはお電話にて。

お問い合わせ先
仁泉会事務局
☎072-682-6166